

尹 浩信

熊本大学大学院生命科学研究部
皮膚病態治療再建学講座教授

第37回日本美容皮膚科学会 総会・学術大会開催にあたって

～会頭・尹 浩信先生特別インタビュー～

第37回日本美容皮膚科学会総会・学術大会は「いつまでも美しく」をテーマに、7月27日(土)、28日(日)の2日間、熊本市民会館、熊本市国際交流会館、熊本県医師会館の3会場において開催される。今回の大会は、美容皮膚科学を基礎から学べる教育講演に力を入れたプログラム構成となっており、これから美容医療に携わる先生や若い先生方にも参加しやすく、学ぶことの多い学会となるであろう。プログラムのコンセプトと見どころについて、会頭の尹先生にお聞きした。



今回のテーマ「いつまでも美しく」に込められた思いについてお聞かせください。

尹 超高齢社会の日本において、ただ単に長生きしたいというだけではなく、より長いあいだ健康で、そして美しくありたいという思いは、男女問わずにもっている共通の願いだと思います。このような人々の希望を叶えるために美容皮膚科医ができることとして、非常にシンプルではありますが、わかりやすく今回のテーマ「いつまでも美しく」を掲げました。

今年の学会はどのようなコンセプトでプログラムを構成されているのでしょうか。

尹 昨今、美容皮膚科学の分野は著しく発展、普及していますが、まだ

まだ新しい学問です。これから美容皮膚科を勉強したいという先生方もいらっしゃるでしょう。そういった意味で、今回は美容皮膚科学の基礎を学べる講演を数多く予定しています。さらに、これまで美容医療の先頭を走ってこられてきた先生方にも満足していただけるよう、最先端の情報が得られる講演もご用意しています。初心者からアドバンスドの先生まで、幅広い層の先生方に対応したプログラム構成になっていると思います。

本学会はこれまで最先端の華やかさが際立っている印象がありますが、今回は基本に立ち返り、基礎からきちんと学ぶ勤勉さを加えた印象の学会になればと思っています。

基礎から応用まで学べる、たいへん充実した学会になりそうですが、具

体的なプログラムの内容について教えてください。

尹 教育講演を中心に据えたプログラム構成を考えており、疾患ごとというより症状ごとに細分化して深く学ぶことができる内容にしていきます。演者には教育機関の先生にとどまらず、クリニックの診療経験の豊富な先生にもご登壇いただき、実践的なお話をしていただきたいと考えています。

まず、メインとなる教育講演については、1つの教育講演の枠を2時間にしたいと思っています。1つの枠で2時間は長いと思われるかもしれませんが、教育講演だけで最大4つの講演が同時に開催されていますので、移動しながら聞いていただくのもよいと思います。具体的には、ピコレーザー、色素性病変、アンチ